

15) 小児外科

1. 診療体制と患者構成

- 1) 診療科スタッフ（講師以上）
 葦澤 融司（教授 診療課長）
 浮山 越史（准教授）
- 2) 常勤医師数、非常勤医師数
 常勤医師数 5名、
- 3) 指導医数、専門医数
 日本外科学会指導医 2名
 専門医 4名
 日本小児外科学会指導医 2名
 専門医 3名
- 4) 外来診療の実績

当科は16歳未満の一般消化器、呼吸器、泌尿器領域のあらゆる疾患に対応している。外来は月曜から土曜まで毎日午前中に行っているが、腹痛、外傷などの救急疾患には時間外、夜間、休日でも対応している。

平成27年度の外来患者総数は4198人、救急外来患者総数は49人で、紹介患者数は352人、紹介率80.5%であった。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来患者数	4163	4602	4153	4198	4787
紹介患者数	362	346	370	352	399
紹介率	83.4%	84.0%	83.1%	80.5%	86.8%

5) 入院診療の実績、

東京都の多摩地域における唯一の大学病院小児外科として、小児科と合同の小児系病棟に10床を確保している。その他、総合周産期母子医療センター内のNICU、GCUならびに一般病棟ICUのベッドにも必要に応じて患者を収容している。平成27年度の入院診療実績および主要疾患の入院患者数、手術数は下記の通りである。

入院患者総数 300例（新生児 1例、乳児以降 299例）
 死亡患者数 1例
 剖検数 0例
 平均在院日数 4.3日
 病床稼働率 67.7%

手術件数は新生児 7例、乳児以降 286例であった。

主要手術の内訳を（表1、表2）に示す。当科における手術で最も症例数が多い鼠径ヘルニアの術後再発率は過去10年で0.2%であった。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入院患者総数	252	260	269	250	300
(新生児患者数)	7	4	9	8	1
手術患者総数	256	246	286	271	293
(新生児患者数)	9	11	17	11	7

2. 先進的医療への取り組み

当科において平成27年度に実施した先進医療は下記の通りである。

・便秘の内圧検査及び組織化学検査

頑固な習慣性便秘に対し、バルーン法による肛門内圧測定と吸引生検による直腸粘膜のアセチルコリンエステラーゼ染色を行い、ヒルシュスプルング病の鑑別を行った。

3. 低侵襲医療の施行項目と施行例数

膀胱鏡下デフラックス注入による膀胱尿管逆流症根治術 2例

4. 地域への貢献

低出生体重児における消化管穿孔症例の検討. 第27回新潟周産期母子研究会学術講演会新潟、平成27年7月25日 葦澤融司教授

小児救急における超音波検査. 第6回日本小児救急医学会あおによし奈良教育セミナー、奈良、平成27年12月5日 浮山越史教授

平成27年度 手術症例 乳児以降（表1）

鼠径ヘルニア根治術	94
臍ヘルニア根治術	45
停留精巣固定術	31
虫垂切除術	20
陰嚢水腫手術	19
精巣摘出術	2
精索捻転手術	1
ラムステッド手術	1
先天性十二指腸閉鎖症手術	1
小腸切除術	1
腸閉塞症手術	2
ドレナージ術	1
開腹リンパ節生検	1
開腹腫瘍生検	1
人工肛門造設・閉鎖術	2
痔瘻根治手術	2
胆道閉鎖症根治術	1
舌小帯形成手術	4
正中頸嚢胞摘出術	6
側頸嚢手術	2
梨状窩嚢手術	1
気管切開術	5
全身麻酔下上部消化管内視鏡	4
食道内視鏡的粘膜下層剥離術	1
経皮内視鏡的胃瘻造設術	1
全身麻酔下内視鏡的十二指腸粘膜下層剥離術	1
内視鏡的結腸ポリープ切除術	3
卵巣嚢腫摘出術	6
膀胱尿管逆流手術	3
膀胱鏡下デフラックス注入	2
尿管摘出術	1
膀胱嚢嚢閉鎖術	1
嚢閉鎖症手術	1
嚢ポリープ切除	1
包茎手術	2
V-Pシャント	3
皮下腫瘍摘出	8
カテーテル挿入・抜去	6
合 計	287

平成27年度 入院 新生児（表2）

鎖肛	1
----	---

平成27度 手術症例 新生児 (表3)

食道閉鎖症根治術	1
食道バンディング術	1
Ladd手術	1
人工肛門造設術	2
Cut back手術	1
梨状窩嚢胞ドレナージ術	1